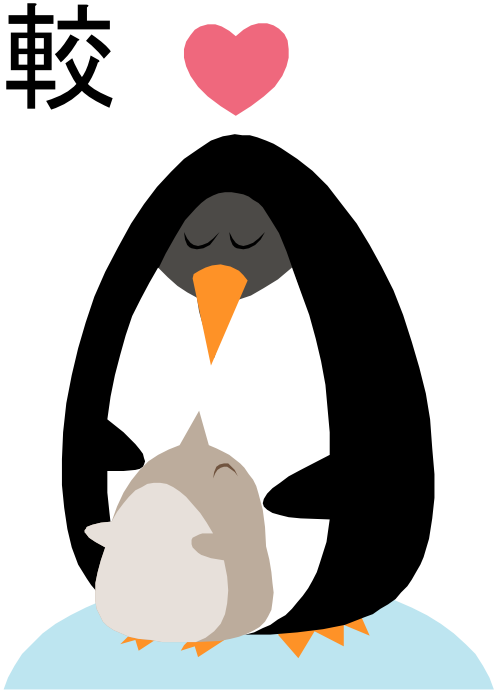
『母の日』報道比較

グループA
豊福裕彌奈
安田峻
石塚直樹
入江巴常
吉岡優希
久島彩希



テーマ概要

ふとした疑問：

「母の日」は全世界共通なのか？

・・・行われる日付・起源・贈り物

一般的に母の日として知られている5月の第二日曜日の新聞を比較することで、その国の『母』の位置づけが見えるのではないか。

仮説

- 母の日に関する記事の量に大きな差が出るのではないか
- まず実はそれぞれ母の日の意味合いが異なるのではないか
- そもそも母の日の日付が異なるのではないか
- 各国での母（女性）という存在の捉え方が見えるのではないか

比較対象

- 日本（豊福）
  読売新聞
- アメリカ（石塚）
  The newyork times
- ドイツ（久島）
  Süddeutsche Zeitung
- フランス（吉岡）
  Le Parisien
- イギリス（入江）
  The Guardian
- インドネシアの実態調査（安田）

検索ワード：母の日
検索日：2014年5月11日

本題に入る前に

順位（日本）	順位（世界）	新聞社名	発行部数（万部）
1	1	読売新聞	1002.1
2	2	朝日新聞	805.4
3	3	毎日新聞	391.2
4	7	日本経済新聞	305.3
5	10	中日新聞	275.5
6	14	東京スポーツ	223.0
7	15	産経新聞	220.4
8	20	日刊スポーツ	186.8
9	22	スポーツ日本	180.0
10	24	夕刊フジ	155.9
11	29	産経スポーツ	136.8
12	33	北海道新聞	120.1
13	46	報知新聞	101.5
14	47	デイリースポーツ	99.9
15	66	西日本新聞	84.9
16	70	中日スポーツ	80.8
17	85	静岡新聞	71.8
18	86	中国新聞	71.8

日本の母の日事情

1931年（昭和6年）に、大日本連合婦人会を結成したのを機に、皇后（香淳皇后）の誕生日である3月6日（地久節）を「母の日」とした。

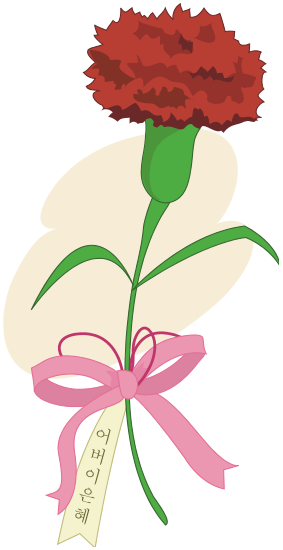
その後1949年（昭和24年）ごろからアメリカに倣って5月の第2日曜日に行われるようになった。

なぜカーネーション？

元々カーネーションは、十字架に架けられたキリストに聖母マリアが落とした涙から咲いた花だといわれている。

赤い色が多いのは、母性愛の象徴だから☺

最近では赤色にこだわることもなく、虹色のカーネーションも発売されるなど色とりどり♪



読売新聞 ビジュアル

編集手帳

注）読売新聞独自の分析や意見も含まれている新聞の「あとがき」やコラム

読売新聞①

- 一面　編集手帳

身近な人に感謝の思いを伝えるのは、大人でも勇気がいる。それが多感な年頃ならば、なおさらだろう◆１日の気流欄（大阪本社版）に、すてきな投稿を見つけた。「反抗期のせいでなかなか感謝の気持ちを表すことができませんが、この場を借りてありがとうと言わせてください」。やはり照れくさいのだろう。岡山県玉野市の中学生、住吉あやかさんの手紙は、少しぎこちなく始まる◆「お父さん。（略）毎朝、駅まで送ってくれる車の中、気まずいこともあるけど感謝しています」「お母さん。小言がうっとうしいと思う時もあるけど（略）これから先、心が折れそうになった時は助けてください」。１４歳少女の、虚飾ない言葉に心が洗われる◆韓国・珍島沖の旅客船事故に遭った高校生も、あやかさんと同じ思いを秘めていたに違いない。現場では今も行方不明者の捜索が続く。「お母さん、直接言えないかもしれないから送っておく。愛している」。これが最後のメールならば、あまりに悲しい◆

きょうは母の日。「記念日の力」を借りていい。ほんの少し勇気を出して、互いの笑顔を確かめあえれば、と思う。

読売新聞②

- ［はな図鑑］シャクヤク　大輪あでやかな「美女」 関田育圓　朝刊２部

◇草月流講師
　きょうは母の日です。
　今回はカーネーションではなく、しばしば美しい女性にたとえられるシャクヤクを主役にしました。濃いピンクの大輪の花は実にあでやかです。茎を短めに切って、花は花器に近い位置にこんもりとまとめます。
　ヤマブキの黄色がアクセント。２種類の花が組み合わさり、鮮やかさがいっそう際立ちます。濃い緑色の葉も美しいですね。
　花器は、青いガラスに赤のワンポイントが入っており、エレガントな雰囲気です。
　シャクヤクは、日当たりがよい暖かい部屋では、すぐに花が開いてしまいます。つぼみから開き始めたばかりのものを選び、涼しい部屋に置くと、持ちがよくなります。
　お母さんにも喜んでもらえる作品になるのではないでしょうか。（談）

　写真＝シャクヤク（安斎晃撮影）
　写真＝関田育圓

読売新聞③

- 2014.05.11　　拉致女子生徒を「娘と重ねる」
  米大統領夫人が演説　　東京朝刊　外A

【ワシントン＝井上陽子】ミシェル・オバマ米大統領夫人＝写真、AFP時事＝は10日、週末のビデオ演説に初めて単独で出演し、ナイジェリアでイスラム過激派組織「ボコ・ハラム」に拉致された200人以上の女子生徒について、「（夫の）バラクと私は、自分の娘たちと重ねている。無事の帰還を祈りましょう」と語った。演説は「母の日」に合わせた内容で、事件後も学校で学ぼうとする現地の少女らをたたえ、教育を受けることの重要性を強調した。

気流欄

（平成26年）5月11日（日曜日）　12版　10

気流

レンゲソウ
題字・角元正博
イラスト・野村咲絵

小学校に通えず

会社員　小林　彦蔵　54　（埼玉県深谷市）

「はっ」かぶってきてくださいと帽子を書いてあったが、最近は脳出血の後のハルハルの世話をしている。

我慢強い母だと分っていたが、痛みに耐えての病院行きだったには、主治医の断言された。

母は6歳で亡くなり、働きの弟だった。その小学校に通っていた。

私は昨年1月、母がベッドに寝ていた。

のは1回だけです。社会人そして月日は、娘が母にになり、暮らしていた。

なる予定です。母から父と、送られてきた食器。だとえ、ふたん焼出代表箱に紙切れが添えられ、に頭が細いと書きます。

毎日の無事確認

団体職員　峯　康法　64　（東京都東村山市）

故郷の宮古市に住む母は94歳で、独り暮らしをしている。父が亡くなって5年、実家を1人で守っている。

さすがに脳梗塞を患ってからは、最近は毎朝の電話のルーティーンの世話になっている。

ただ、今も毎月1回、郷里の小学校の同級生と銭湯を囲む会を続ける。私は10歳を目指して、できるだけ帰りたいと願いつつも、遠く母の顔を見たいと思っているだけに心配が募る。

そのため、毎日、朝と夕に「元気？」と電話をかけ、無事を確認する。

今後のテーマ　※4日前必着
談論風発　成人年齢（18日）
ぜいたく（25日）
私流　人付き合い（6月1日）

来信　反響を追う　退院後も健康管理に活用

とても親切にしてもらい、嬉しかったり、自宅にも配慮してもらえることを教えてもらった。昨年1月に脳出血で入院した。

幸い軽症で済んだが、医師から「今後、脳梗塞や心筋梗塞を起こす危険性がある」と言われ、ショックを受けた。

入院中、看護師から「退院後も健康管理が大切」と繰り返し聞かされ、不安になった。

退院後、インターネットで「脳梗塞　再発防止」などと検索し、食事や運動、睡眠などに気をつけるようになった。

（岡山県倉敷市　パート　磯田　和恵　40）

優しい育児感謝

1歳の息子が、生後間もなく入院した。

病院に通って1年ほどたった頃、主治医から「もう来なくていい」と言われた。幼稚園に通っていた。

妻と病床で和解

会社員　酒匂　禎美　56　（愛知県豊橋市）

結婚して妻を実家に迎えた。入社した。

私が、母との折り合いが悪く、入院中に、妻が看病に来てくれた。

私たちは実家の近くに住んでいた。

母は突然倒れ、救急車で運ばれた。

病院に運ばれた。

めがね納めかも、母は「これで主しょうと」。今年

事実をなかった。

もう妻から誘われた。

手すりは残して

主婦　清水久美子　65　（仙台市）

星腰の弱った母がいるので、変えるのは嫌いそこで、甲斐のない手すりの隅まで、

今月中旬、車両大賞受

とにした。

母のつらが感じられる、

のリフォームを始める。

どういう風景が入ってくるのか、自分の部屋に

昨年4月の母の出現を解

そこうすると再び元気になった。

母の喜びを感じる。

「まあ、うれしい」と喜ぶ

ほっこりした。母の自慢が聞

み、病気になってしまった。

こえてきそうだ。

白い花に寂しさ

（愛知県春日井市　鈴木　守　73）

ラスの頃が、母親に贈る赤い花の種類が増え、母はゼラニウムなどを育てるのが楽しみだった。

編み物が趣味の一つで、ベストやセーターを編んでくれた。

私はこの手で編んでもらった服を見るのが好きで、見習いたいと思っていた。

（千葉県千葉市　若狭　尊子　65）

編み物が趣味の一つで、ベストやセーターを編んでくれた。

私はこの手で編んでもらった服を見るのが好きで、見習いたいと思っていた。

「今が一番幸せ」

主婦　秀男　尊子　65　（千葉県千葉市若葉区）

独り暮らしを寂しがっていた。

歳の母の口癖は「今が一番幸せ」だった。

番幸せ」だった。

うって元気な生活でいる。

目細に出かけ、思い出話をしながら食事をとったりと、充実した毎日を送っている。

あげている。これからは娘さんの趣味に付き合え、母はゼラニウムなどを育てるのが楽しみだった。

よみよみうり時事川柳

長井好弘選

子減る　減る　減る　昭和の子ども生きのびる　府中　阪本　敬彦

「帰ってきてもお母さま」橋の独り言　我孫子　世　喜

自宅の庭の父がプレハブ咲え　東京　舟山　豊一

結婚は冷凍はさむ就活の謎　柏　篠塚　稲風

シナ海は「海は広い」と言うが　東京　前澤　孝侑

ダイが持つ時間かけ民主主義　東京都　勇兵

※

「ふるさと小包」ご利用ありがとうございます。

「ふるさとなごころ自慢大会」上腕囲こっぷ賞ってすれ…。

投稿は〒103-8601日本橋郵便局留　読売新聞東京本社「気流」係まで。FAX03-3217-8229。電子メール toushou@yomiuri.com。職業、氏名、年齢、住所、電話番号（携帯も）を明記。「読売プレミアム」にも掲載します。作品は未発表のオリジナルのみ。二重投稿はお断りします。

日曜の広場

テーマ　母

中村　怜子　72　東京都中野区

消滅ポイント

恩田　陸

199

読売新聞④

［気流］5月11日　日曜の広場「母」（投書）　気流

◆小学校に通えず

◇会社員　小林茂敏　54（埼玉県志木市）

母は6歳で養子に出され、働き始めました。そのため小学校に通っていません。母が書いた文字を見たのは1回だけです。

社会人になり離れて暮らしていたとき、送られてきた食品や衣類に紙切れが添えられ、「はやくかえつてきてください」と平

仮名で書いてありました。

我慢強い母でしたが、痛みに耐えかねて病院へ行ったときには、末期がんと診断されました。

私は昨年9月、母が亡くなった年齢になりました。そして今月には、娘が母になる予定です。母から学んだことを、きちんと

次世代に語り継いでいきます。

◆妻と病床で和解

◇会社員　飯田裕美　56（愛知県岩倉市）

結婚して妻を実家に迎え入れた。だが、母との折り合いが悪く、3年ほどして、私たちは家を出た。数年後、母は突然顔色を悪くし、病院に運ばれた。完治が見込めない病と分かり、母には事実を伝えなかった。

駆けつけてきた妻と母との対面は何かぎこちなかった。後で知ったことだが、2人はその場で互いにこれまでのことを謝り、母は妻のことを「いいお嫁さん」と看護師に話したという。

どういう因縁か、母の命日は妻の誕生日と同じになった。「お母さんが好きだった菓子を持って、墓参りに行きましょうよ」。今年もそう妻から誘われた。

（以下省略）

広告

お母さんの笑顔は、ダヴのうるおいから。
心から笑顔を見せるお母さんの美しさ。
それは、毎日の小さなシアワセが積み重なって生まれるものです。
ダヴは応援します。お母さんの、心も体もうるおう毎日を。
お母さんであり、一番の友達。最も信頼しています。いつもくだらない話やわがままを聞いてくれてどうもありがとう。（24歳 女性 東京都）
いつも家族を優先してくれてありがとう。愛をたくさん感じます。親孝行していくから期待してね！（21歳 女性 愛知県）
いつも家族全員の健康を考えてくれてありがとう。最近、私のことを大人として認め、信頼してくれているのを感じます。その信頼に応えられるよう頑張ります。（19歳 女性 兵庫県）
わたしのキレイはうるおいから

考察

- 報道内容は「いつも言えないけれどありがとうの気持ちを伝えよう」というものが多く、カーネーションにも触れている

  →カーネーションの購入を促すため
- 母の日の由来などは記事にないためこのような機会に調べないとわからない

  →カーネーションを渡すきっかけとなった理由や今の日に母の日が制定されているのがアメリカから取り入れたものであり、報道しづらいから？

アメリカの母の日事情

- アメリカの母の日も日本と同じ、5月の第二日曜日。
- 現在のような母の日の起源はAnna Jarvisが行ったのが始まり
- 白いカーネーションを贈るのが一般的だが、これも上の起源に由来する

母の日の記事1

- Celebrate Mom With Crater All Her Own

5/11/2014 The New York Times Blogs (Bits)

母の日の贈り物として、火星のクレーターに名前をつけるサービスを紹介している。

母の日を導入にしているが、主な内容は、このプロモーションの説明と、その背景について＝宇宙科学の新しいファウンディングの必要性

（つけた名前が正式な名前になる予定はない。。。）

母の日の記事2

- Growing Up Without the One Who Delivered You

5/11/2014 The New York Times Television Review

テレビで放送された、子供の頃に母親を亡くした人たちについてのドキュメンタリーの紹介。

母の日が、母を亡くした人たちには辛い日である、という導入から始まる。

母の日の記事3

- Playing on Mother’s Day After His Mother’s Sudden Death, St. Louis Boys Rangers

5/11/2014 The New York Times Hockey(Sports)

直前に母を亡くしたが、それでも母の日の試合に出場したSt Louis Boys Rangersに所属する選手の話。

記事のまとめ

- On Mother’s day weekend,~~~のように、母の日を切り口に記事を始めるものは多かったが、母の日自体を紹介する記事はなかった。

- しかし2011,2012年には、異国の地にいる子供が母の日にどれくらい電話するのかを、各国ごとに比較した記事やMother’s dayは母のものなのか、子供のものなのかを語る記事があった。

- 5/10には日本のコラムニストの彼女自身の母の話を交えた投稿記事が掲載されていた。

考察

母の日自体が記事になることはない。

だが、やはり母についての話題は多い印象

+一般の情報サイトでは、母の日企画がさかん。

Buzzfeed

World's Toughest Job - #worldstoughestjob -(日本語訳)

American Greetings「母の日キャンペーン」

ドイツの母の日事情

- ドイツの母の日（Der Muttertag）も日本と同じ５月の第２日曜日
- １９２３年から始まる
- 全国紙”Franlfurter Allgemeine Zeitung”、”Die Zeit”、”Süddeutsche Zeitung”を調査したが、2014年母の日に関する記事があったのは”Süddeutsche Zeitung”のみであった。

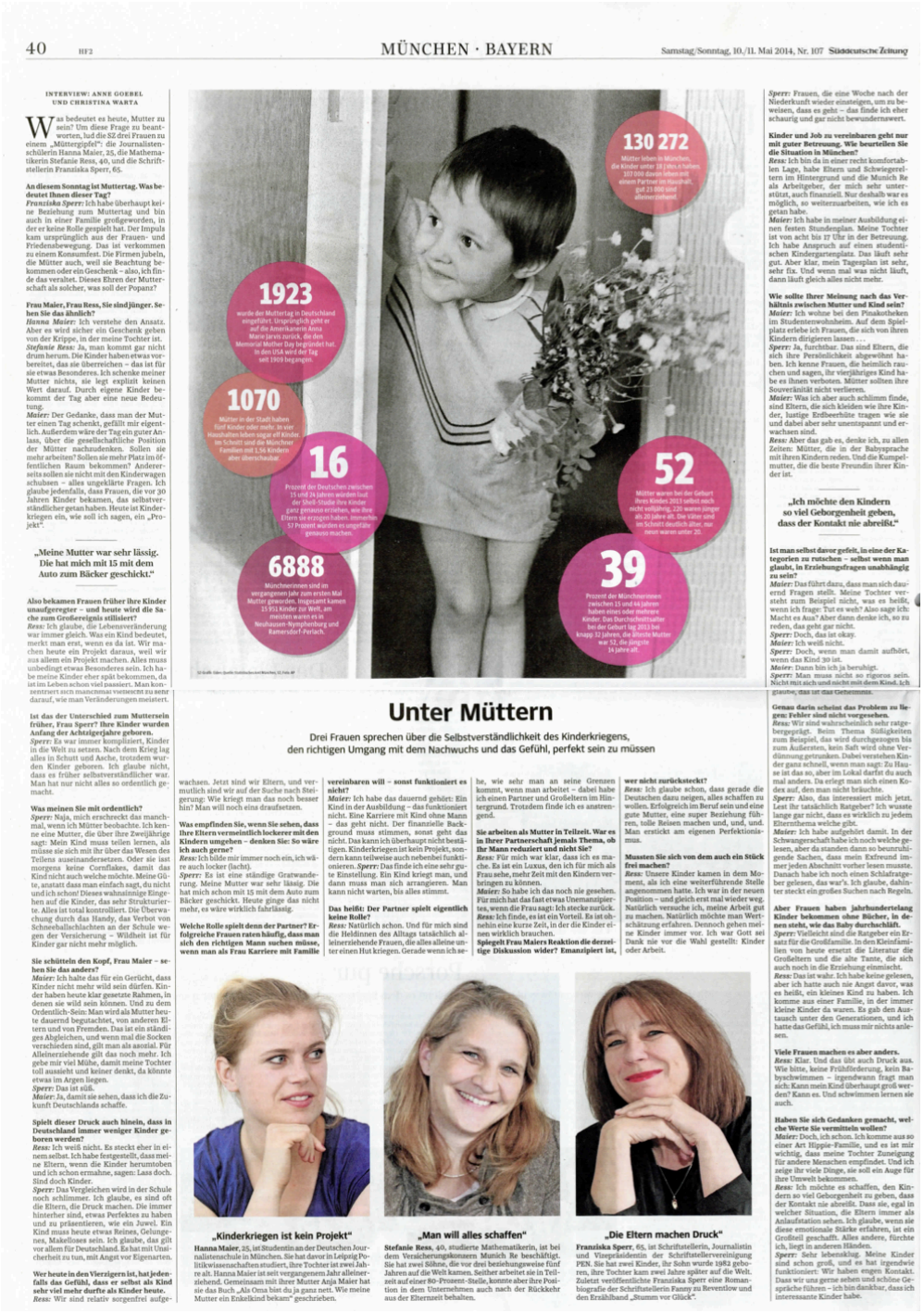
  →日本に比べると重要度が低い？

Süddeutsche Zeitung

南ドイツ新聞

- １９４５年刊行の日刊紙
- ミュンヘンに本社
- バイエルン地方に人気、約４３万部

URL http://www.sueddeutsche.de/



40 HF2 MÜNCHEN · BAYERN Samstag/Sonntag, 10./11. Mai 2014, Nr. 107 Süddeutsche Zeitung

INTERVIEW: ANNE GOEBEL UND CHRISTINA WARTA

Unter Müttern

Drei Frauen sprechen über die Selbstverständlichkeit des Kinderkriegens, den richtigen Umgang mit dem Nachwuchs und das Gefühl, perfekt sein zu müssen

„Kinderkriegen ist kein Projekt“

„Man will alles schaffen“

„Die Eltern machen Druck“

Süddeutsche Zeitung
2014年5月10･11日付
（発行日5月10日）

40ページ
ミュンヘン･バイエルン欄

Webページもあり
http://www.sueddeutsche.de/muenchen/gespraech-zum-muttertag-kinderkriegen-ist-kein-projekt-1.1957419

紙面の構成

- 世代の異なる３人の母親（２５歳、４０歳、６５歳）に対してのインタビュー方式
- 写真は、メインとなる子どもの写真に数字から見た母親事情をのせたものが１枚、インタビュイーの写真が3枚
- 「母の日」の記事というよりも、母の日にちなんでドイツの「母親事情」を伝えている

- 1923年
- 1,070人
- 16%
- 6,888人
- 130,272人
- 52人
- 39%

話題の流れ

あなたにとって母の日とは？

↓

育児について

- パートナーの役割
- ミュンヘンの状況
- 育児カウンセラー

まとめ

- ドイツでも、日本と同じように母の日を祝うが、新聞記事に取り上げる際には、社会問題を絡めた報道になった。

フランスの母の日事情

- 母の日５月最後の日曜日（ただし、キリスト今日の精霊後輪の主日Pentecotが重なった場合は6月の第一日曜日）

- 特にカーネーション的なしばりはない。（カーネーションはお墓に供える花。特に白は。）

- 元々戦後に多産の母を称すものだった。

Le petit bonheur des mamans

FAMILLE. Longtemps jugée un peu démodée ou trop commerciale, la Fête des mères fait aujourd'hui consensus.

IL Y A TOUTES CELLES qui, par principe, vont grimacer parce qu'il s'agit d'un « prétexte commercial »... Ou quelques rares esprits chagrins qui ont décidé de n'accorder aucune importance à une fête «inventée par Pétain». Il n'empêche, selon un récent sondage du site Cadeaux.com, 80% des mamans espèrent une petite «attention» aujourd'hui, ne serait-ce qu'un petit déjeuner au lit, une pâquerette ou un poème déclamé avec autant de fougue que de ratés. La Fête des mères, ringarde au possible dans les années 1970, a gagné sans en avoir l'air de la légèreté... et de la profondeur.

Un moment rare

On est très loin du travail-famille-patrie ou du business de la sorbetière : le dernier dimanche de mai, en ce début de XXIe siècle, c'est devenu un moment rare, nécessaire, presque gratuit, un « petit moment de bonheur ». « Dans cette société hyper individualiste qui manque de sens et de symbole, dans laquelle les liens ont tendance à paraître éphémères, la Fête des mères est devenue le sacre du lien durable», sourit Christine Castelain-Meunier, sociologue et auteur du « Ménage, la Fée, la Sorcière et l'Homme nouveau» (Editions Stock). Pour elle comme pour beaucoup d'expert(e)s famille, longtemps peu enclins à inclure la Fête des mères dans la liste des «rituels qui comptent», c'est un paradoxe à la fois étonnant et réjouissant. « C'est comme si les mères et les enfants avaient détourné un rendez-vous obligé pour en faire quelque chose d'essentiel : se dire mutuellement merci. » Malgré les tâches domestiques qui leur incombent encore bien davantage qu'aux pères, les championnes d'Europe de la fécondité ne se préoccupent plus d'être de bonnes fées du logis ou des compagnes parfaites. Elles lâchent, délèguent, se savent imparfaites... En revanche, être une bonne mère, c'est quasiment le challenge de leur vie. « S'entendre dire *t'es la meilleure*, elles en ont besoin. Cela redore leur rôle de mère, un rôle choisi et vécu en tant que femme libre», constate la sociologue. Et comme un plaisir n'est jamais complet quand il n'est pas partagé, les enfants aussi trouvent leur compte dans cet « élan affectif ». Petits, ils apprennent la joie de fabriquer, de fomenter des surprises, d'émouvoir leur maman. C'est généralement la première occasion, pour eux, d'être acteurs d'un don.

FLORENCE DEGUEN

Crosne (Essonne) Emmanuelle, 46 ans, a gardé tous les cadeaux offerts à chaque Fête des mères par ses trois enfants. ([illegible])

Elles ouvrent leur boîte à cadeaux

CE SONT DE PETITS TRÉSORS, accumulés au fil du temps dans des boîtes à cadeaux. Deux mamans ont accepté de nous présenter leurs richesses, récoltées au cours des Fêtes des mères. Entre toutes les boîtes et autres malles accumulées au fil des déménagements, Emmanuelle, 46 ans, pourrait retrouver celle-ci les yeux fermés. A l'intérieur du rangement : les poteries, les cadres en aluminium avec photo du bambin et les poèmes composés à chaque Fête des mères par Audrey, 20 ans maintenant, Mélanie, 18 ans, et Cyril, 10 ans. « C'est impensable de les jeter, et quand ils commencent à voler de leurs propres ailes, c'est sympa de ressortir la boîte », confie cette aide médicale de Crosne (Essonne). Certains cadeaux, comme le petit cœur en céramique signé par son fils l'année dernière et suspendu au rétrovi-

hésite avant de livrer quelques lignes

■ VOIX EXPRESS

Allez-vous célébrer la Fête des mèr

■ VOIX EXPRESS

Propos recueillis par DAN PEREZ

Allez-vous célébrer la Fête des mères ?

Ophélie Faerber
25 ans, mère au foyer
Villiers-le-Bel (95).

« **Oui.** Absolument. C'est un moment très important, spécialement depuis que je suis devenue mère. Je serai aujourd'hui avec ma mère et ma belle-mère pour passer la journée en famille. J'offrirai quasiment le même cadeau à l'une et à l'autre... un bijou. Comme ça, pas d'histoires ! Mais j'ai surtout hâte que mes enfants grandissent pour recevoir, à mon tour, mon premier cadeau. »

Lénaïc Carou
18 ans, étudiant
Besançon (25)

« **Oui.** Cela représente les bonnes valeurs. Je crois que ma mère s'en moque si on ne la lui fête pas. A l'âge de 6 ans, je lui avais offert un collier de pâtes, pas sûr qu'elle l'ait gardé très longtemps ! Mais j'achèterai quand même un petit cadeau, pour marquer le coup, même si je m'y prends à la dernière minute. J'ai appris il y a trois jours seulement qu'on célèbre la Fête des mères aujourd'hui ! »

Elina Gonzalez
30 ans, sociologue
Triquerville (27)

« **Non.** Pourquoi faire quelque chose d'important un jour seulement dans l'année ? Dans chaque pays on a choisi un jour au hasard en le déclarant Fête des mères. Ce sont des considérations commerciales. C'est au quotidien qu'il faut remercier sa mère, être reconnaissant pour ce qu'elle nous apporte. Alors cette fête commerciale m'agace et ne m'intéresse pas du tout. »

Virginie Esso
52 ans, secrétaire
Clamart (92)

« **Oui.** Même si pour moi c'est tous les jours la fête, car je me sens très proche de mes filles. Chaque année, mes filles me gâtent. Mais je trouve normal que les enfants soient reconnaissants vis-à-vis de leur mère. Malheureusement, elles habitent à la Réunion, il est donc difficile de se voir. Mais je reçois un cadeau. Grâce à Internet et la webcam, j'ai pris l'habitude de l'ouvrir devant elles. »

Denys Royard
57 ans, Chauffeur
Saint-Denis (93)

« **Pas trop.** Ma mère habite en Bourgogne, c'est un peu loin. J'ai vu que la Fête des mères était aujourd'hui mais bon, elle ne se vexera vraiment pas si je ne l'appelle pas. Je communique avec elle régulièrement mais pas pour évoquer ce genre de coutumes ou de traditions. On préfère échanger sur sa vie quotidienne, car elle a 94 ans et je n'attends pas de jour particulier pour lui offrir des cadeaux. »

un instant, je revois tous les tendres moments qui me font te dire maintenant que je t'aimerai éternellement. »

De cœurs en pâte à sel, en osier ou en papier...

Céline Bombled, 41 ans, a six enfants ! Tous s'organisent pour lui faire un cadeau. Elle en a fait son petit mausolée. Un tiroir de la commode, dans sa chambre, dissimule son magot de souvenirs, composé uniquement de cœurs : en pâte à sel, en osier ou en papier. Florestan, Victorien et Apolline les ont fabriqués lorsqu'ils étaient petits. La jeune femme s'arrête avec tendresse sur deux cœurs en feutrine brodés « Maman je t'aime ». « J'ai même gardé l'enveloppe ! », sourit Céline. Elle est rose bonbon avec écrit dessus « Pour maman adorer » (sic).

Dans une petite boîte, Céline a gardé précieusement les poèmes de ses enfants. En les relisant, quelques larmes lui montent aux yeux. « C'est fou comme ils arrivent à exprimer leur amour sans pudeur : *Maman tu es la plus jolie, je t'aime et si tu pars je serais mort* », lit-elle d'une petite voix. Ce dimanche, elle compte bien leur montrer ces trésors accumulés au fil des ans.

FLORA GENOUX ET MAUD COLLARD

Le Parisien
(Paris)
2014/5/25
10ページ
Acutualité

Le Parisien

- 大きい新聞社、フィガロは休刊、モンドには記事なし。なので地方紙であるパリジャンから記事をひっぱってきた。元々フランスは地方紙の方が売れ行きがよい。パリジャンのパリ版。

- http://www.leparisien.fr/

紙面の構成

- 写真は子供から手作りのプレゼントをもらったエマニュエルさん（４６歳）
- あなたは母の日を祝いますか？というアンケート。
- アンケートに答えてくれた人の写真

記事の内容

- 最近のフランスの母の日事情。商業的な位置づけにあるのではないか。と少し母の日を皮肉った内容からはじまる。
- 次に昔の母の日のあり方について語られる。それから、理想の母親像、プレゼントのあるべき姿について書かれ、しめくくられている。
- アンケートでは四人中一人をのぞいて、全員何かしら母の日を祝っていた。

まとめ

- フランスでは、日本同様、母の日を祝う。母をねぎらうという文化が存在した。しかし、日本よりも手作り感のあるもので、又フランスらしく、詩をプレゼントするということもよくあることらしい。
- 新聞では商業化されてしまった母の日を皮肉り、手作り路線を推していて、本来あるべき母の日の姿への懐古が感じられた。

イギリスの母の日事情

- イギリスの母の日は四旬節の第４日曜日にあたる。そのため毎年日付が異なっており、マザーズデーではなく、マザーリング・サンデーと呼ばれている。
- 基本的に日本と同じように祝うが、日本と少し違う部分もある。イギリスの子供達は母の日当日教会に行って花を受け取り、それを母親に贈る。ただしイギリスではカーネーションを贈るという文化はない。

The Guardian

'She drives me crazy' ... Are mothers too honest?

Mum's horrible home truths

On the eve of Mother's Day, Viv Groskop wonders why mothers think it's OK to criticise their daughters' hair, clothes and weight when no one else would

Mother's Day is when we celebrate the maternal role. But there's one special quality to that role we don't often acknowledge: that mothers can get away with saying things that no one else is allowed to.

"I don't want to freak you out, but I think you may have put on a little bit of weight." Charlotte Alter, an American journalist, wrote in Time magazine last month that her mother said this to her when she was 12: "Horrified relatives said I would need years of therapy to forgive my mother for 'fat-shaming' me into anorexia, that I would eventually turn to drugs and cutting to heal my crippled psyche before I succumbed to a life of crime. None of these things happened. Instead, I have a good relationship with my body and my mother, partly because she told me when I was getting a little plump."

When she lost weight, her mother still told her she was "getting a butt".

I cringed when I read this because my mum once told me in my 20s that I was "gross". It prompted me to lose two stone. I needed to lose that weight. But I didn't need to hear that word. And not from my mum. I am in good company, however. Gwyneth Paltrow's mother used to tell her not to slouch and that she needed to wash her hair.

There has been a spate of discussions about what they call "mom's home truths" in the US. The responses to Alter's confessions ranged wildly: "Teach your child about self-respect and loving yourself at any shape." "It's really unfair of a parent to stand over a kid like this." "Look what happens when you tell the truth. Being fat is not good for you." "Where are the fat pictures?"

There's an extreme side to this that probably requires therapy. Typical blogs: "My mother is a toxic person." "My mother destroyed me." "My mother is a narcissicist."

But there's also an everyday side to it which anyone can identify with and is just part of the business of having a mother. Caitlin Moran has said that she is developing a strategy: "When on the phone to your mother, have an open bag of Maltesers on the table. Eat one every time she says something annoying. Eventually, like Pavlov's dog, you will come to associate her being annoying with a delicious treat - thus reprogramming your entire relationship in a positive manner."

In Vanity Fair this month, a survey asks: "Which one of these people would you least want to critique your outfit before a big night out?" "Mother" ranks above terrifying US Vogue editor Anna Wintour, a woman once known to look someone's outfit up and down and murmur, "Matchy-matchy ..." In a Net-mums poll, mothers saw themselves as having a closer relationship with their sons and described their daughters as stroppy and serious while their sons were cheeky and loving.

Why is there this code between mothers and daughters? Why is it OK for us to speak to each other like this? Is it life-changing honesty or soul-destroying sniping? In her hilarious book You're Wearing That?, linguist Deborah Tannen describes the conversation between mothers and daughters as containing "metamessages" about the ever-changing power shifts in the relationship. Psychologist Terri Apter has argued that "criticism between mother and daughter often fosters a daughter's intellectual and emotional growth".

Pettiness is one of the (most enjoyable) hallmarks of your classic mother-daughter insult. Tannen calls hair, clothes and weight The Big Three because they are the killer subjects for the maternal harpoon: "All women are judged on their appearance. And mothers are inclined to scrutinise their daughters in the same way they would scrutinise themselves. The comments that mothers make that they think are helpful are the comments daughters interpret as critical."

Pettiness is one of the hallmarks of the classic mother-daughter insult

"Terrible Things Mothers Say" has become an internet meme. "Your legs look fat. Do you need that snack?" "Thinking about it, you probably shouldn't have had a baby." "One thing you could try is not sleeping with everyone." "Your belly is too big for a two-piece." "That suit makes you look pregnant. I just want the best for you."

There are plenty of cases where badly aimed criticism (or unsolicited advice that gets interpreted as criticism) veers into abuse. There are blogs where victims compete for the worst maternal insults: "You're too fat. Gain any more weight and we'll have to tow you out." "I wish you'd get hit by a car so I'd never have to see you again." It's hard to beat the all-time champion of mother insults catalogued in Jonathan Maitland's How to Survive Your Mother. He can lay claim to this answerphone message: "This is your mother speaking. Don't ever come round my house while I'm alive. Do you hear me? I never want to see you again."

I worry in turn that I am soon going to start saying these things to my seven-year-old daughter. (Not about never coming round my house again. Yet.) In fact I have already heard expressions from my own childhood coming out of my mouth. "Are you going out with your hair like that?" "Do you really think that coat matches?" "No. Not those socks. Definitely not those socks." There is an ongoing mother-daughter disagreement in our house over the acceptability of fluorescent socks. I kid myself that this is preferable to what I heard in my teens. "Is that what people are wearing nowadays?" "Very 'with it', I'm sure." "That's an interesting dress." This is possibly the worst insult. Translation: you look awful.

But already the tables are turning and it is usually my daughter who rounds on me. "Mummy, I'm not saying you're fat. But why are you a bit fat?" "Why don't you have a fit suit [a tracksuit] like the other mothers?" After generations of daughters being on the receiving end of snipes and barbs, I'm happy to take this. It's a fitting revenge.

Happy Mother's Day!

ガーディアンのファミリーページの5面に掲載されていた。文字数は963words

内容と分析

- 母親が娘に対して体型や容姿について罵倒しているという事実が述べられ、複数の専門家の意見(母と娘の間での批判が娘の知的・感情的な成長を育むなど)が述べられている。そして最後には娘が母親に対して言い返すようになっていると書かれている。
- しかし最後は「母の日、おめでとう！」で締めている。
- 母の日の説明自体は何もなく、母と娘のエピソードが記されていた。
- 母の日当日には記事がないことや母の日についての記述がないという点から、母の日自体には比較的関心がないように考えられる。

インドネシア（安田）

【報道媒体】

①Kompas.com　http://www.kompas.com/

→日本でいう朝日や読売のような存在

②REPUBLIKA　ONLINE

http://www.republika.co.id/

→イスラム寄りの大衆紙

【インタビュー】

メリア先生（1児の母）にお話を伺いました。

インドネシアの母の日事情

- 12月２２日Hari　IBU　（hari=日　Ibu=母）

→1928年12月22日に女性に関する会議（教育や結婚・離婚に対する女性の権利を大幅に改善する決定が下された）のが開催されたことから、これを記念してこの日が母の日と制定されている

→当初は女性の精神を祝い、国家の状態を改善することが目的。次第に他国のように母親への感謝を表す日に変容

コンパス紙①

【見出し】

Tanpa Perempuan, Tak Ada Pembangunan

女性なくして発展なし

【内容】

・12月22日は母の日である

→その認識が薄い

→女性に対する関心を高めていくべき

・女性の存在が今後の社会の発展を　促していくことになるだろう

→世界の水準と比べてもまだまだ

→女性が社会進出しやすい環境作りを

→女性も社会で活躍するという意識を

Tanpa Perempuan, Tak Ada Pembangunan

Jumat, 23 Desember 2011 | 07:52 WIB

Baca juga

0 Share

15 Tweet

0 komentar

0 8+1

KOMPAS.com - Tanggal 22 Desember, Indonesia kembali merayakan Hari Ibu. Banyak orang memersepsikan Hari Ibu seperti Mother's Day di Barat yang ditujukan untuk menghormati ibu, segala jerih payahnya melahirkan dan membesarkan anak-anak, serta peran ibu di masyarakat.

Tidak ada yang salah dengan keinginan menghormati peran ibu, tetapi Hari Ibu pada 22 Desember di Indonesia mengacu pada Kongres Perempuan I di Yogyakarta tahun 1928. Sekitar 1.000 perempuan hadir dalam kongres yang menuntut kolonialisme dihapus dari Indonesia dan mencatat peran perempuan dalam Kebangkitan Nasional.

Pada saat hampir bersamaan, Bank Dunia mengeluarkan laporan tahunan. Untuk pertama kali laporan bertema kesetaraan jender.

World Development Report 2012, Gender Equality and Development pada intinya menekankan dengan bukti dari sejumlah negara berkembang dan maju pentingnya kesetaraan jender dalam pembangunan.

コンパス紙②

【見出し】

Hari Ibu, Megawati “Sentill” Ratu Atut

母の日に皮肉を述べた

【内容】

・インドネシアの主要政党の幹部のMegawati さんが、汚職事件を起こしたRatu Atutさんを皮肉交じりに批判した

・公の立場においてそれなりの財や知名度を持つRatu Atutさんが汚職事件を起こしたことで、女性全体のイメージが悪くなることを懸念している

Hari Ibu, Megawati "Sentil" Ratu Atut

Minggu, 22 Desember 2013 | 13:58 WIB

KOMPAS.COM/Sandro Gatra

Ketua Umum DPP PDIP Megawati Soekarnoputri

Berita terkait

Airin Iklas Wawan Dituntut 10 Tahun Penjara

JAKARTA, KOMPAS.com - Ketua Umum PDIP Megawati Soekarno Putri "menyentil" Gubernur Banten Ratu Atut Choisiyah yang kini sudah ditetapkan menjadi tersangka dan ditahan oleh Komisi Pemberantasan Korupsi (KPK)

レプブリカ紙

【見出し】

Di Hari Ibu, Muhaimin Ajak Perusahaan Hormati Hak Prempuan

ムハイミンさんが企業に女性の権利を尊重するよう求めた

【内容】

・母の日にムハイミンが働く女性のもとを訪問した

・そこで、女性の働く権利や環境作りの整備の重要性について言及した

・実際にインドネシア社会で働いてる女性の言葉を紹介

Di Hari Ibu, Muhaimin Ajak Perusahaan Hormati Hak Perempuan

Senin, 23 Desember 2013, 03:44 WIB

Komentar : 0

Menakertrans Muhaimin Iskandar menyempatkan diri untuk mengunjungi salon kecantikan milik Mantan TKI Arab Saudi, Cilacap, Kamis (12/12)

A+ | Reset | A-

REPUBLIKA.CO.ID, JAKARTA -- Menteri Tenaga Kerja dan Transmigrasi Muhaimin Iskandar meminta peringatan Hari Ibu yang jatuh pada tanggal 22 Desember ini menjadi momentum bagi semua pihak untuk meningkatkan perlindungan bagi pekerja perempuan Indonesia yang

記事に関する考察①

・記事の量は少なく母の日の関心の薄さ？が伺えた

・家族が母親に何かをするという内容もなし

・子供や母親の写真や記事すらもなし

→インドネシアはイスラム教国家であり、イスラム教では母親は崇高な存在であり、敬うのは普段から当たり前！？

※「預言者よ。最も近しくすべき人は誰でしょうか？」預言者は言った。「母だ。」男は言った。「その次は？」「その次は母だ。」「ではその次は？」「その次は母だ。」「ではその次は？」「父親だ。」

記事に関する考察②

・女性の権利に関する記事が目立った

→母の日というよりは女性の日のようなイメージ

→女性に関する社会問題を改めて定義するきっかけとして母の日が使われていた

→今のインドネシアでは女性の社会進出が関心事なのかもしれない

→働く女性＞母という構図があるのだろうか？

写真の考察

主要政党幹部の女性の写真
→女性成功者の代表格
→女性の権利拡大の後ろ盾の存在

他国への出稼ぎの末資金をため、インドネシアで美容室を開業した女性とそれを笑顔で見る大臣格の男性
→一般女性の成功例で社会進出を喚起
→国の主要幹部も女性の社会進出を奨励していることの強調！？

女性の社会進出が強く求められているような印象を受けた

メリア先生へのインタビュー

5月29日　＠戸田公園駅　ドトール

Q：インドネシアにおける母の日は実態は？

A：母の日という認識はあるが、花やプレゼントをもらうことや家事の手伝いなど具体的なことは特にない。Hari Kartini(4月21日）という女性の日の方がイベントなども有名。

Q：それはなぜか？

A:イスラムにおいて母親を敬うことは日常的に当然のことであるからかも。モノをあげるよりは気持ちを伝えることの方が重要視される。また、家事や子供の世話はお手伝いさんがやることが多い。

Q：記事では女性の社会進出が強調されていたがなぜだと思うか？

A：インドネシアではかっこいい女性は仕事ができる人。また、最近では世界に追いつけ？みたいな感じで女性の地位向上を促している感がある。

まとめ（インドネシア）

・母の日の特別感は薄い
→別に女性を祝う日が存在するから（Hari Kartini)
→イスラム教徒にとって母を敬うことは当然のこと

・女性の社会進出の重要性が強調されていた
→働く女性はかっこいいという価値観
→進んだ国への発展を目指す上で、女性の権利の向上は現在の国家の関心事である

仮説の検証

- 母の日に関する記事の量に国によって大きな差が出るのではないか

  →◎地方紙にしか記事がない（仏、独）

  米：母の日を切り口に違う記事にする

- まず実はそれぞれ母の日の意味合いが異なるのではないか

  →◎英：ししゅんせつMothering Sunday

  インドネシア：女性の権利拡大（徐々に母の日）

- そもそも母の日の日付が異なるのではないか

  →◎

- 各国での母（女性）という存在の捉え方が見えるのではないか

  →インドネシア（物ではなく思いが大事！イスラム教より。父より母のほうが崇高な存在）

おまけ！その他の国のデータ

- 2月第2日曜日 ノルウェー
- 3月3日 グルジア
- 3月8日 ボスニア・ヘルツェゴビナ・セルビア・スロベニア・マケドニア・アルバニア・ブルガリア・ルーマニア
- 四旬節の第4日曜日 Mothering Sunday イギリス・アイルランド
- 3月21日（春分） バーレーン・エジプト・レバノン・シリア・パレスチナ・ヨルダン・クウェート・アラブ首長国連邦・イエメン
- 4月7日 アルメニア
- 5月第1日曜日 ハンガリー・リトアニア・ポルトガル・スペイン・南アフリカ共和国
- 5月8日 アルバニア・韓国
- 5月第2日曜日 日本・アメリカ合衆国・台湾・カナダ・香港・オーストラリア・ドイツ・イタリア・南アフリカ共和国・シンガポール・ニュージーランド・ペルー・フィリピン・ベルギー・ブラジル・チリ・コロンビア・キューバ・デンマーク・エクアドル・プエルトリコ・スイス・チェコ・ウルグアイ・中国・リヒテンシュタイン
- 5月10日 メキシコ
- 5月15日 パラグアイ
- 5月26日 ポーランド
- 5月最終日曜日 フランス
- 8月12日 タイ（シリキット王妃陛下誕生日）
- 10月第3日曜日 アルゼンチン
- 11月最終日曜日 ロシア
- 12月22日 インドネシア

参考文献

- http://tabi-labo.com/11729/mothersday/
- http://www.hanataiyouame.com/mothers/motherworld.html
- http://paris.navi.com/special/5051532
- http://www.bellemaison.jp/gift/specially/hahanohi/hahanohi03.html

お母さんに感謝の気持ちを♡